

この度の急な訃報に大変な驚きとも大きな悲しみを感じております。
大西さんは、これまでも大きな足跡を残されましたが、
今まさにそれらが結実しさらなる大きな成果や発展を前にして
亡くなられたことが本当に残念でなりません。
大西さんのこれまでの業績を讃えるとともにご冥福をお祈り申し上げます。

大西さんは実際のところは大変なエリートであるにもかかわらず、
そのような素ぶりは一切見せることなく、いつも研究者として同じ目線に
立ってくださり、さらに親しみを持って接してくださる方でした。
大西さんと初めてお会いいたしましたのは遡ること30年近く
ほど前1997年の春の学会でした。その時は北大にいらっしゃい
ましたが、その当時の私の指導教員の室谷さんに
自慢そうにこんな面白い結果が出たと話されていたことを
思い出します。初めて参加した物理学会でしたが、
それまで想像していた研究者とは違って活き活きとされていた大西さんに
強い印象を持ちました。

その後も研究会などで幾度となくお見かけする機会に恵まれました。
私が学生の頃は、(3+1)次元の相対論的流体模型の計算に取り組みましたが
これで非対称なフローが解析できる準備ができたのですね、とコメントして
くださったことも思い出します。

また私は博士取得後なかなか次が見つからず苦勞しておりましたが、
とあるところにお声がけしてくださったこともありました。
実際は、私はその後幸運にも渡米する機会に恵まれました。そこでの仕事に注目を
していただき、物理学会での招待講演に声をかけてくださったのも大西さんでした。
このように分野の後進にも目を配りさりげなくサポートしてくださっていました。

同時に大変楽しい方で、大西さんというどうしてもついつい笑ってしまう
エピソードをいろいろと思い出さずにはいられません。
中国の研究会での出来事やハワイでの眼鏡紛失事件など、お聞きしていて、この人は
本当に高名な'物理学者なのだろうか、'と思ったりもいたしました。

大西さんがもしかしたら尋常でない状況なのでは、となんとなく私が感じましたのは
昨年3月ごろでしょうか。
その当時広島で計画していた国際会議での招待講演を健康の理由でお断りされて
しまったこと、さらにオンライン開催となった学会で座長をされていたが、
その面変わりにびっくりしたことです。

ですが、とても精悍なお顔つきでこれが本来の大西さんであるのだろうと思いました。
そうであっても、その数ヶ月前の12月に我々が年に数回計画している Heavy Ion Pub で
2時間にもわたる講演をされたばかりであったので、
きっとまた元気になれるであろう、楽観的に考えておりました。
しかし、青天の霹靂と言うべき突然の訃報、いまだに信じられず本当に残念でなりません。
私自身は同分野の研究者としてもっと色々と議論や交流をしておけばよかったと
大変な後悔をしております。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

野中 千穂 (広島大学)